ハイセンス城の戦い

大河内健詞

篭城中の城内。
この城の兵士たちはみな、チェックのシャツをインしている。

（字幕「敵軍の包囲から半年」）
（字幕「城内の兵糧はすでに尽きかけていた」）

殿　　援軍は、援軍はまだ来ぬのか・・・
家臣１　殿、謹んで申し上げます。敵軍の包囲から半年、篭城はもはや限界かと思われます。
家臣２　何を弱腰な！兵糧はなくとも、戦意は全く衰えておらぬ！
家臣１　最後まで聞け。忍びの情報によれば、明朝にも総攻撃が行われます。
殿　　何！
家臣１　敵兵は 2 万人。一方我が軍はわずか 2000 人。勝ち目はありませぬ。
家臣２　人数が勝負を決するのではない！センスだ！センスが勝負を決するのだ！
　　我々は誇り高きハイセンス城の兵士。センスだけは誰にも負けぬ！
殿　　確かに、我々はハイセンスだ。ワードセンス、料理のセンス、試験勉強のセンス、
　　乗り換えを最短距離でするセンス
家臣２　面白動画を見つけるセンス！
殿　　そう、数え上げれば切りがない、我々のマルチなセンスに勝てるものはいない！
家臣１　しかし、我々のセンスにも弱点があります。敵はそこを突いてくる模様であります。
家臣２　弱点だと！
家臣１　忍びが撮影してきた、敵兵の装備をご覧ください。（映像：カジュアルなモデル）
家臣２　こ、これは、
家臣１　そう、敵はお洒落のセンスで、我々を圧倒しております。
家臣２　しかし、この程度であれば私も
家臣１　これは足軽だ！
家臣２　これで足軽だと！では武士は一体
家臣１　武士はこれだ。（映像：大人の余裕を感じさせるモデル）
家臣２　なんと・・
家臣１　我々が 100 人束になっても、適わぬでしょう。そして大将がこれ（映像：レディーガガ？）
家臣２　もはや我々には理解不能じゃ。
殿　　このままではこの城は落ちる。我々も対抗せねば。
　　このファッションセンス、敵は一体どのように身につけたのだ。
家臣１　敵はこれまでにお洒落の要衝を次々と落城させてきました。
　　（映像：古地図　よく見るとハイセンス城は本郷三丁目にある）
　　横浜を落とした敵は、東急線沿いを次々に攻略。自由が丘、二子玉川、代官山、渋谷
　　一部はここから銀座線に乗り、表参道、青山、銀座、日本橋を攻略。膨大なファッションアイ

テムを
手に入れます。本隊は副都心線を北上し、原宿、そして新宿を攻撃、
東国一のファッションの拠点と言われる、新宿伊勢丹を降伏させました。
殿　（立ち上がって）い、伊勢丹だと！？
家臣２　伊勢丹とはそんなにすごいのか？
家臣１　知らぬのか？新宿伊勢丹はいち小売店でありながら、圧倒的な商品調達力、ブランド力で
日本のファッション界をリードしてきたのだ。（映像：伊勢丹のモデル）
殿　噂によれば、新宿伊勢丹には女人禁制の別館、男の館があるらしい。
そこでは、何の変哲も無い、ミッキーマウスのプリントＴシャツがな、、、２万８０００円！
家臣　高い！！
家臣２　地獄、地獄じゃ！
殿　そう、まさに地獄。
その伊勢丹を降伏させるとは・・・
家臣２　殿、我々も早急にお洒落アイテムを手に入れましょう！
殿　軍資金はどうするのだ？
家臣２　我々の裏庭、日暮里には繊維街があります！メーター１００円の布で作ればお財布も安心であります！
家臣１　誰が作るのだ！
家臣２　母ちゃんに決まっているだろう！
家臣１　母ちゃんが、メーター１００円の布で作った服が、伊勢丹で買った服に勝てると思うか！
殿　同意だ。既成品で、我々も買いに行ける、コスパの高い服を探さねば。
家臣１　残念ながら、比叡山に続き、都内のユニクロ、ジーユーは全て焼き討ちされました。
家臣２　何！頼みの綱が・・・もはやこれまでか
姫　と、殿ー！
殿　どうした姫（心の声：「いつ見てもダサいのう・・・」）
姫　敵軍の使者が来ています！殿に謁見したいと
家臣１　殿、これは和睦の機会！
家臣２　罠かもしれませぬぞ！
殿　・・・よし、通せ。
家臣２　殿！
姫　承知しました！
殿　安心しろ。我々にはな・・・交渉のセンスがある！
家臣２　なるほど！さすが殿！
姫　お通りください。
使者　おお、これはこれは、話には聞いていたが、皆ダサいのお（いちいち格好いいポーズ）
家臣２　何たる侮辱！（心の声：「しかし、お洒落だ・・・」）
殿　はっはっは。これはダサいのではない。みな、部屋着としてチェックのシャツが好きなだけだ。
使者　失敬、これは部屋着でしたか。（座る）
殿　話とは当然、我々に降伏を迫りにきたのじゃな。
使者　左様。

殿　　条件は何じゃ
使者　城主、家臣の首、および、姫を差し出せ
家臣２　何だと！このお洒落お化けめ！
殿　　（家臣２を制して）いやはや、手厳しいな
使者　戦いの世では当然のこと
殿　　のお、ここはお互い、ウィンウィンの関係を築けないかと思うのじゃ
家臣１　・・・(心の声：「殿のビジネスセンスが、ちょっと古い！」)
使者　それはどういうことか
殿　　我らのマルチなセンスと、おぬしたちのファッションセンスが合わされば、天下統一も容易じゃ。
　　ここはひとつ、我らと組まないか？
使者　ほほう、どんなセンスがあるのだ？
殿　　まず・・・ぷよぷよのセンス
使者　・・・要らぬ。
殿　　ボンバーマンのセンス
使者　要らぬ。
殿　　ドクターマリオのセンス
使者　（食い気味で）要らぬ。ゲームばかりではないか。しかも古い。
家臣１　お好み焼きをひっくり返すセンス！
使者　要らぬ。何の役に立つ
家臣２　逆立ちしながらAKBのメンバーを全部言うセンス！
使者　それはセンスではない！一発芸だ！
殿　　大喜利のセンス！
家臣　（心の声：「殿ー！！」）
使者　それは興味深い。では、(お題を出す。映像にお題が映る)
殿　　（つまらない回答）
使者　意味が分からない！次！
家臣１　（さらにつまらない回答）
使者　アドリブ弱いんじゃないのか！次！
家臣２　（もっとつまらない回答）
使者　かすりもしないな！こんな奴らがコント書いて大丈夫か？
　　おっと！私は関係ないって顔してるお前も答えろ！
姫　　（絶望的につまらない回答）
使者　・・・何この空気。
　　全然センスが無いではないか！
姫　　お題のセンスが無いのです！
使者　はあ？こういう答えがあるだろ！（面白い回答。映像に回答が映る）
皆　　ギャー！（悔しがる）
使者　お前達にはろくなセンスが無い事がわかった。そして降伏の意思もないと。
　　近々総攻撃を行う。我々の圧倒的なファッションセンスと笑いのセンスの前に、

お前達はなすすべもなく蹂躙されるだろう！
ぷよぷよでもして待っていることだな！あっはっはっは！

家臣１　なんという屈辱じゃ・・・
家臣２　殿、念のためお聞きします。我々に、マルチなセンスはあるのでしょうか。
殿　・・・はっはっは、前々から気づいていたのじゃ。我々に、大したセンスは無い。
特にファッションセンスが無い。中でも姫がダサい
姫　名指し！？
殿　もはや退路は無い！今夜、新月の闇にまぎれて奇襲をかける！
皆　殿！
殿　皆の者、準備せよ！
皆　ははっ！（去る）
家臣１　セカンドバッグはどこじゃ
家臣２　黒いタンクトップはどこじゃ
殿　ポケットティッシュを忘れるでないぞ！うむ、わしも甲冑を用意せねば
姫　（パーカーを持ってくる）殿、お母様が買ったパーカーです。もうこれしか・・・
殿　何とも言えぬ柄・・・母上は何を思ってこれを。
（パーカーを着ながら）姫よ。なぜこの城は、ハイセンス城と名付けられたんじゃろうか。
姫　（メイクをしながら。下手。）さあ、皆目検討もつきませぬ。
殿　そう、誰もわからぬ。ただ言えるのは、そのせいで無駄にハードルが上がっているのじゃ。
本当は違うのに・・・何故じゃ、何故じゃ・・・

（ホラ貝、戦いの声／フェードで暗転）

＜完＞